

第13章 その他の活動

1. 中部大学通信及びANTENNAの発行
2. 中部大学キャンパスコンサート
3. 三浦学園音楽際
4. 三浦学園幸友会及び中部大学後援会

第13章 その他の活動

1. 中部大学通信及びANTENNAの発行

1-1 中部大学通信

【発刊の経緯と現状の説明】

『中部大学通信』の前身『中部工業大学通信』は大学開学から4年目に当たる昭和42年4月に創刊された。創刊の当初から編集委員会を置き、出来る限り多角的な見地からの編集を行ってきた。創刊の目的について、創刊号の編集後記は次のように記している。

「中部工業大学には、広く学生や父兄のかたがたに、学内の色々の計画や出来事などに関してお知らせする公的な印刷物は今までのところ何もなかった。新しい学部や学科の増設、建築の計画、人事異動、学内の行事など……中部工業大学の建学の精神や教育方針は、在学生はもちろんのこと、多くのかたがたにもできるだけ深く理解していただきたい大切なことである。……『中部工業大学通信』を年3回ないし4回定期的に発行し、その役に立てたいと思う。」

創立者で三浦幸平初代学長も一面の「創刊をよろこんで」の中で「……本学の関係者がうって一丸となって学園のために互の心と心のふれあう機会をつくりたいと思う。その意味において『中部工業大学通信』が、広く教職員に、学生に、卒業生に、父兄その他多くの関係者に、十分な理解を得る一助ともなっていて……」と述べている。

創刊号はタブロイド版で8頁。10段組み、1段15字。1面のコラム「桃園四季」、2面の「Platform」「ランダムショット」などは今に続く企画である。「クラブ紹介」が3号から始まり、今に続いている。

『中部工業大学通信』は、当初、読者対象を教職員、学生、卒業生、父兄と幅広く設定し、大学における唯一の定期刊行物として機能させてきた。しかし、平成5年4月、教職員を対象とした広報誌『ANTENNA』の発刊を機に主たる対象を学生とすることにより、紙面の大幅刷新を図った。

この間、昭和59年4月の第69号は中部大学のスタートを報じ、平成4年3月には記念すべき第100号を発刊した。

中部工業大学の誕生から発展、そして、中部大学への歩み。大学の歴史の一つ一つを活字と写真で綴ってきた『中部大学通信』は、100号までの総ての号を収録して、翌平成5年3月、『縮刷版』が発行された。

平成12年1月現在、第132号発行のための編集作業が進行中であるが、第100号記念号をカラー化したのに端を発し、紙面のカラー化が少しずつ進み、開学30周年の記念行事を報じた第111号は

多くのカラー写真が紙面を飾った。

この号を皮切りに紙面のカラー化は急ピッチに進み、親しみやすく、読みやすく、理解しやすい紙面作りが一段と加速している。

なお現在の発行部数は14,000部を数えている。

【点検・評価】

『中部大学通信』は現在タブロイド版8頁建を基準に大学の行事を受け、それを速やかに報道できるよう年4回（5月末、7月末、11月下旬、2月下旬）発行されている。定期刊行物を標榜する以上定期発行が至上命令である。しかし、原稿執筆者、査読者などの都合により、多少遅れることがある。

次に正確な報道という面で、校正の問題がある。校正は編集委員と広報出版室員が行っているが、校正もれが完全に払拭できているとは言いがたい。

現在は学生用媒体と規定し、何よりもリーダビリティの向上に努力しているが、未だ学生の手持っている情報環境とは相当な隔りがあるのが現状である。そのためにモニター制度を発足させ、学生の意見を紙面に反映させることも今年度から開始した。また、配布方法としては、学生の父母宛に郵送しているのに加えて、学生の集まり易い学内7個所にスタンドを設置しているほか、従来通り図書館、郵便局、管財部前などにも配置している。

【改善・改革に向けた方策】

① 学生のための情報提供強化

本紙は学生のための媒体であることを視野に入れ、学生の意見を収集することはもとより、学生の手持っている情報を的確にキャッチする努力を引き続き拡大していくようにする。

② リーダビリティの向上について

以前に比べて写真を多用し、グラフ化は図って来たが、タブロイド版、タテ書き、1行13字という現在の形の中では改善が難しい。加えて外国語表記が増大している現状から、紙面の思い切った刷新も視野に入れながら取り組んでいく。

③ 校正ミスの絶滅

これはより多くの人々が注意深く校正を行うこと以外に方法は見当らない。現状では執筆者、情報提供者、編集委員、広報出版室員が当たっているが最終的には広報出版室メンバー4人の責任校正体制による以外に方法は見当らない。

④ 配布方法

スタンド方式を採用したことにより、スタンドから学生が手にする部数は毎号500～700部程度である。この方法を継続していきたい。

1-2 ANTENNA

【発刊の経緯と現状】

『ANTENNA』は大学の三学部体制も軌道に乗り、開学 30 周年を翌年にひかえた平成 5 年 4 月 (1993)、大学職員のための広報〈誌〉として創刊された。広報〈紙〉ではなく広報〈誌〉としたのは、教職員のためのオピニオン誌を目指し、将来的な発展を見越し、頁数の拡大にも対応できるようにしたためである。

発刊は隔月、A4 判横組み、表紙とも 12 頁を基本としつつ情報量の多い時には増頁が簡単にできるようにした。オピニオン誌を目指すところからも、各頁を「論壇」「CLOSE UP」「NEWS SPOT」「広報」「My Note」など、あらかじめ機能を明確にした紙面づくりを目指した。さらに編集委員からの意見も「WAVE」覧で紹介することにした。

『ANTENNA』の発行のねらいについて、当時の山田和夫学長が創刊号で次のように述べている。
「……これまでも学園・大学で発刊されてきた『三浦学園報』が学園全体の教職員を、『中部大学通信』が中部大学の学生諸君を、それぞれ対象としているのに対して、『ANTENNA』は中部大学の教職員を対象としたもので、大学内のコミュニケーションをより一層良くしていこうというねらいもっています。

大学という組織の性格上からか、同じキャンパス内で働く者同志でありながら、これまでお互いのコミュニケーション・情報の交換が、とかく十分でなかった面がありがちであったことは否めないと思います。『ANTENNA』は、そういう反省のうえに立って、学内の情報交換を活性化し、お互いの共通理解の場を広げていくための手段の一つになってほしいと考えています。……アンテナには受信用のものと発信用のものがあります。『ANTENNA』とは、情報をキャッチし、かつ発信していくという意味を込めてのネーミングであるとするれば、それはまさにシンボリックで、これからの本学における大学改革においても、その重要な一翼を担ってくれるものと大いに期待をします。……」

こうした方針に基づき、先ず編集委員会を組織し、委員会の総意にもとづき編集を進めてきた。

『ANTENNA』の位置づけを大学教職員のためのオピニオン誌としたことで、多くの誌面、コーナーにそれぞれ編集意図を明確にしている。

「論壇」は大学の問題、大学改革からはじまり、教育、研究などで筆者を指定し、論を展開していただく頁としている。

「CLOSE UP」は組織、活動などの紹介から、折々の話題の記事を記名原稿、取材原稿を通して掲載している。

「CYBERSPACE」は毎月 1 回開かれる情報化推進委員会の結果を告知し、学内の情報環境の整備とアドバイスを進めるための常設コーナーとしての設置を要請されて誕生した。第 1 回は 1996 年 10 月発行の No.20 からである。

「NEWS SPOT」折々のニュース的なもので、教職員にぜひ知ってもらいたいものなどを紹介してい

る。

「私の1?」は1998年4月発行のNo.28から始まったコーナーで、オピニオン誌の中にあつてのアウトホームなオアシス的ページとして位置づけ、個人的な趣味、食べ物情報から行きつけの店などを記名入で紹介してもらふ目的で企画したものである。

「My Note」はオピニオン誌にふさわしくさまざまな意見を述べてもらふコーナーとして企画した。

「WEVE」は編集委員から読者への情報発信コーナーである。

「広報」は折々のニュース、予定などを紹介するコーナーである。

「表紙」は当誌の顔として、又本文への導入を計るための重要な位置にあることをはっきりさせ、当該期間でのイベント・ニュースなどの中から表紙にふさわしいものを選んで使用している。

発行部数は1,200部、うち300部は大学、高校、報道、行政などに送付している。

【点検・評価】

2000年1月に発行した号でNo.38を記録した。創刊以来7年目が経過しようとしている。No.38は「学園60周年・大学35周年記念事業」のビッグ・イベントだった鳥居慶應義塾塾長の講演会の全文を、当日使用のスライドの一部も使って紹介した。したがって総頁数も22頁に達し、広報誌と呼ぶにふさわしい体裁となった。

オピニオン誌として主として教員に執筆を依頼しているが、多忙という理由から断られることも多々ある。未だ広報誌発行の意義の不徹底さを痛感する。併せて、寄稿原稿の少なさについても同じことが言えるのではなからうか。

後半に設定している「私の1?」「My Note」ももっと身近にある情報も、もっと軽く紹介してもらえば誌面そのものがさらに楽しくなり、その中から教職員同志の交流も進んでいくのではなからうか。平成13年度には応用生物学部も新設され、5学部の総合大学となる。「意見をたたかわせるなかから新しい大学像」を創っていくための媒体としての機能がいちだんと重要になってくる。

【改善・改革に向けた方策】

一石を投じても波紋として広がらない。誌面を飾った意見や情報に対してのレスポンスが無い。これは余り読まれていないことへの何よりの証明であるかも知れない。

編集委員会、編集部からの情報発信を単に誌面のみにとどめるのではなく、具体的にフェイス・トゥ・フェイスでの情報発信と確認を意識してくり返して行くことが必要だと考えられる。情報を読みやすく加工することはもとより、つい読みたくなるようにするために、編集部の努力が必要なところである。

2. 中部大学キャンパスコンサート

【現状の説明】

中部大学主催の「中部大学キャンパスコンサート」は地元春日井市および春日井市教育委員会の後援を受け、昭和63年以来、年3～4回の割合で開催し、平成11年11月には35回目となるコンサートを開いた。会場は、中部大学内にある「三浦幸平メモリアルホール」で行っている。なお、本コンサートは平成元年以来、日本私立学校振興・共済事業団の補助金対象（公開講座推進特別経費）として採択されている。

別紙に、平成7年度から平成11年度までの開催記録表を掲げた。

【点検・評価】

教育の場で行われる本コンサートは、地域交流の一環としての「公開講座」の要素を持ち、また同時に、毎回、多数の市民・学園職員・学生などの参加を得、地域社会の評価を得ている。

【将来の改善・改革に向けた方策】

このコンサートを通じての地域交流と中部大学が持つアカデミックな文化の提供を一層推進する。

中部大学キャンパスコンサート開催記録(平成7年度～平成11年度)

(No. 1)

	回	開催日	タイトル	出演者	曲目	入場者数(人)
平成7年度	20	平成7年6月18日	フランス・クリダピアノリサイタル	フランス・クリダ	エステ荘の噴水、ベトラルカのソネット第104番、詩的で宗教的な調べより「葬送曲」、ジュネーヴの鐘、超絶技巧練習曲より「マゼッパ」・「ヘ長調」、華麗なマズルカ、恋の歌、ウィーンの夜会第3番、ハンガリー狂詩曲第8番嬰ヘ長調・第12番嬰ヘ長調、リゴレット [全曲：リスト作曲]	530
	21	平成7年9月23日	ピヤトラス・ゲニューシャスピアノリサイタル	ピヤトラス・ゲニューシャス	クタヴィチス：ピアノ・ソナタ、クレメンティ：ピアノ・ソナタ嬰ヘ短調、ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第23番短調 op. 57「熱情」、ショパン：ポロネーズ第7番変イ長調 op. 61「幻想ポロネーズ」、ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ第2番変ロ短調 op. 36	585
	22	平成8年2月24日	中川さと子・宮田俊雄デュオリサイタル	中川さと子(ヴァイオリン)、宮田俊雄(ピアノ)	ベートーベン：ヴァイオリンソナタ第1番ニ長調 作品12、グリーグ：ヴァイオリンソナタ第3番ハ短調 作品45、ブラームス：ヴァイオリンソナタ第3番ニ短調 作品108	560
平成8年度	23	平成8年5月26日	イスラエル弦楽四重奏団演奏会	イーガル・トゥネ、エリヤクム・ザルツマン(ヴァイオリン)、アレクサンダー・カガノフスキー(チェロ)、ロベルト・モーゼス(ヴィオラ)	モーツァルト：弦楽四重奏曲第19番ハ長調「不協和音」K. 465、ラヴェル：弦楽四重奏曲ハ長調、シューベルト：弦楽四重奏曲第14番ニ短調「死と乙女」D. 810	475
	24	平成8年7月6日	フランチェスコ・ニコロージピアノリサイタル	フランチェスコ・ニコロージ	シューマン：ソナタ第2番ト短調 作品22-2、ブラームス：創作主題による変奏曲 作品21-1、ターレルク：ロッシェニの歌劇<モーゼとファラオン>の主題によるファンタジー、リスト：スペイン狂詩曲	510
	25	平成8年10月19日	竹のしらべ	福原百華(篠笛)、住田長十郎(鳴物)、東音 本多貞子(唄・三味線)、梅若敏子(ソプラノ)、根本英子(ピアノ)、鴻池薫(ギター)	平井康三郎：平城山、佐々木すぐる：月の砂漠、古賀正男：影をたいて、福原百之助：長唄「明の鐘」・長唄「助六」より抜粋 恋の夜桜・篠笛二重奏 竹の踊り、J.L. モロイ：やさしき愛の歌、ドヴォルザーク：わが母の教え給いし歌、越谷達之助：初恋、アメリカ民謡：アメイジング グレイス	470
平成9年度	26	平成9年5月24日	ラルフ・ヴォタベックピアノリサイタル	ラルフ・ヴォタベック	ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第26番「告别」変ホ長調 作品81a、ブラームス：八つの小品 作品76、ヒナスターラ：ピアノ・ソナタ、ドビュッシー：「影像」第2集、ラヴェル：ラ・ヴァルス	490
	27	平成9年9月6日	オペラ・アリアの饗宴	エリザベート・フレッセル(ソプラノ)、エリザベート・ランク(アルト)、オリヴァー・リンゲルハーン(テノール)、アンドレア・マルティン(バリトン)、笹目裕夫(コレペテール)	ヘンデル：歌劇「クセルクセス」より、グルック：歌劇「オルフェオとエウリディチェ」より、モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」より、ロッシェニ：歌劇「セヴィリアの理髪師」より、ヨハン・シュトラウス2世：歌劇「こらもり」より、プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」より、ドニゼッティ：歌劇「愛の妙薬」より、サン＝サーンス：歌劇「サムソンとデリラ」より、ジョルダノ：歌劇「アンドレア・シニエ」より、ビゼー：歌劇「真珠とり」より、モーツァルト：歌劇「コシ・ファン・トゥッティ」より、歌劇「魔笛」より、ヴェルディ：歌劇「ドン・カルロ」より、歌劇「リゴレット」より	511
	28	平成9年10月18日	ジェミティ兄弟連弾リサイタル(ピアノデュオ)	ファビオ・ジェミティ、サンドロ・ジェミティ	バッハ：オルガン・ファンタジーとフーガハ短調、モーツァルト：2台のピアノのためのソナタ「ラルゲットとアダージョ」、ショパン：2台のピアノのための Rond 長調 作品73、モーツァルト：2台のピアノのためのソナタ、リスト：半音階的大ガロップ	518

	回	開催日	タイトル	出演者	曲 目	入場者数(人)
平成 10 年 度	29	平成10年2月21日	ブルンネン室内楽リ サイタル	丹羽道子(ヴァイオ リン)、児玉千佳 (チェロ)、戸崎由 香(ピアノ)	ハイドン:ピアノ三重奏曲第25番ホ短調、 バッハ:無伴奏チェロ組曲第1番ト長調、サ ン=サーンス:序奏とロンド・カプリッ チョーソ、チャイコフスキー:ピアノ三重奏 曲イ短調 op.50 「偉大な芸術家を記念し	421
	30	平成10年7月11日	アレキサンダー・イ ンチェフ ピアノリ サイタル	アレキサンダー・イ ンチェフ	スカルラッティ:チェンバロソナタ、ペー トーヴェン:ピアノソナタ第21番ハ長調 作 品53「ワルトシュタイン」、ドビュッシー: 映像 第一集・喜びの島、ショパン:ピアノ ソナタ第2番変ロ短調 作品35「葬送行進曲つ ぎ」	520
	31	平成10年10月10日	ドイツ・リート・リ サイタル	カトリン・ライヴエ (ソプラノ)、エ リック・フーシェ (テノール)、菅目 裕夫(ピアノ)	シューベルト:白鳥の歌、シューマン:女の 愛と生涯、メンデルスゾーン:二重唱曲	497
	32	平成11年2月27日	潮田侑樹ピアノリサ イタル	潮田侑樹	スクリャーピン:ピアノ・ソナタ第4番嬰ヘ 長調、ドビュッシー:「12の練習曲」より第 7番「半音階のための」、ラフマニノフ: 「絵画的練習曲集」作品39より「第1番 八短 調」、ショパン:「12の練習曲」作品10より 「第1番 八長調」、カセラ:「7の練習曲」 作品70より「第5番」、スクリャーピン: 「12の練習曲」作品8より「第2番 嬰ヘ短 調」、リスト:「超絶技巧練習曲集」より 「第4番 マゼッパ」、ムソルグスキー:組 曲「展覧会の絵」	521
平成 11 年 度	33	平成11年5月29日	“花の詩”コンサート	矢口十詩子(ヴァイ オリン)、F.O.A.M. サクソ四重奏団 (サクソ)、飯田 実千代(ソプラ ノ)、石川ひとみ (ピアノ)	ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第3番ニ 短調、サン=サーンス:序奏とロンド・カプ リッチョーソ、フランセ:サクソフオーン組 曲、モーツァルト:歌劇「魔笛」より「地獄 の復讐の思いが」、ロッシニ:歌劇「セ ヴィーリアの理髪師」より「いまの歌声 は」、ドリーフ:歌劇「ラクメ」より「鐘の 歌」、マスネ:歌劇「ヴェルテール」より 「どうぞ涙を流させて」、ヴェルディ:歌劇 「リゴレット」より「慕わしき名」	448
	34	平成11年7月24日	フランチェスコ・カ ラミエッロ ピアノリ サイタル	フランチェスコ・カ ラミエッロ	シューマン:ダヴィッド同盟舞曲集 作品6、 ズガンパーティー:プレリュードとフーガ 作品6・グルックの主題による:夜想曲変ニ 長調 作品31・ロマンス 作品23-1、リスト: エステ荘の糸杉・エステ荘の噴水、マル トウッチ:夜想曲 作品70-1・タランテッラ 作品44-6	525
	35	平成11年11月6日	青柳晋 ピアノリサイ タル	青柳晋	ブラームス:ピアノ・ソナタ第3番ヘ短調 作 品5、ラヴェル:優雅で感傷的なワルツ、リ スト:スペイン狂詩曲	516

全コンサート通じて

○開催場所 三浦幸平メモリアルホール(中部大学内)

○プレ・コンサートレクチャー 鶴田正道(中部大学教授)

3. 三浦学園音楽祭

【現状の説明】

本音楽祭は、昭和51年に三浦学園が設置する3つの学校の学生・生徒による吹奏楽の合同演奏会として始まった。以来、平成11年度に第25回を数えることとなり、学園の伝統行事として定着している。現在では、中部大学をはじめ学園のすべての学校（中部大学技術文化専門学校、名古屋第一高等学校、春日丘高等学校、春日丘中学校）から多彩なジャンルの10の団体が一堂に会して、日ごろの成果を発表するという、全国的にもユニークな行事となっている。なお、この音楽祭は名古屋市にある愛知厚生年金会館を会場として行っている。

別紙に、平成7年から平成11年度までの開催記録を掲載した。

【点検・評価】

演奏会の企画・運営には、クラブ顧問などの教職員が実行委員会を組織し、演奏に直接参加する学生・生徒とともに、芸術性と教育面のバランスのとれた演奏会を創り上げ、学園としての一体感の醸成を育んでいる。

【将来の改善・改革に向けた方策】

25回の節目を迎え、全ての団体を出演させる学芸会的な現在の形式を考えるべきとの意見が出てきている。また、最近では出演団体が独自で行っている定期演奏会を音楽祭よりも重視している傾向があるとともに、開催時期的にも重なっている団体が多い。これは、教育的効果を中心に行ってきた音楽祭そのものの見直しの時期にきているといえる。具体的には、芸術性をさらに高めた音楽祭にするため、出演団体を選考して行うなどが考えられる。

三浦学園音楽祭 開催記録 (平成7年度～平成11年度)

(No.1)

回	開催日	出演団体	曲目	参加者数(人)
21	平成7年11月18日	中部大学軽音楽部	チック・コリア:クリスタルサイレンス～スペイン	802 (内訳) ・出演者:322 ・入場者:480
		中部大学混声合唱団	John Wilbye: Thus Saith My Clois Bright、木下牧子: ティオの夜の旅	
		春日丘中学校	村井邦彦: 涙をください、松任谷由美: 春よ 来い	
		中部大学女子短期大学女声合唱団、中部大学技術文化専門学校女声合唱団	Frank Churchill: High-ho・High-ho、Alan Menken: Beauty and The Beast、Leigh Harline: When You Wish Upon A Star、Alan Menken: A Whole New World	
		名古屋第一高等学校吹奏楽部	チャールス・カーター: Introduction and Caprice、ジョセフ・オリバドゥティ: Carnival of Roses Overture	
		中部大学マンドリンクラブ	久保田孝: 組曲「第3番ト短調」	
		春日丘高等学校吹奏楽部 C・F・B	ステージドリル～リズムは躍る～	
		中部大学吹奏楽シンフォニックバンド	ジェームス・バーンズ: Eagle Crest Overture	
		中部大学・中部大学女子短期大学管弦楽団	ブラームス: ハンガリー舞曲 第1番・第5番	
		春日丘高等学校吹奏楽部	ビゼー: アルルの女 第1組曲・第2組曲	
22	平成8年11月16日	春日丘中学校	坂田晃一: 光の中へさあ君と、喜納昌吉: すべての人の心に花を、シュトラウスI世: ラデツキー行進曲	981 (内訳) ・出演者:319 ・入場者:662
		名古屋第一高等学校吹奏楽部	ブラームス: ハンガリー舞曲 第5番、スウェアリンジェン: All Glory Told	
		中部大学マンドリンクラブ	古賀政男: 丘を越えて、熊谷寛一: 暁の歌	
		中部大学混声合唱団	池辺晋一郎: 隅田川花火の宴食、高嶋みどり: ひとりぼっちの裸の子ども	
		中部大学女子短期大学女声合唱団	飛鳥涼: はじまりはいつも雨、太陽と埃の中で、中島みゆき: 春なのに、時代	
		春日丘高等学校吹奏楽部 C・F・B	P・MARQUINA: ESPANA CANI、GUSTAV・T・HOLST: JUPITER from「THE PLANETS」、井上忠夫: ジャパニーズ・グラフィティ、岩井直輝: シンコペーテッドマーチ: 明日に向かって	
		中部大学軽音楽部	デキシーの世界	
		中部大学・中部大学女子短期大学管弦楽団	ドヴォルザーク: スラブ舞曲	
		春日丘高等学校吹奏楽部	安藤まさひろ: TOMORROW'S AFFAIR、JOE・GARLAND: IN THE MOOD、HANS・ZIMMER: BACKDRAFT、ZEQUINHA ABREU: TICO-TICO	
		中部大学吹奏楽シンフォニックバンド	矢部政男: マーチ・エイプリル・メイ、John Kander & Freed Ebb: ニューヨーク・ニューヨーク、ヤン・ヴァンデルロースト: プスター～4つのジブシー舞曲	
23	平成9年11月15日	春日丘高等学校吹奏楽部 C・F・B	ステージドリル ～勇氣ある挑戦～	1,009 (内訳) ・出演者:374 ・入場者:635
		春日丘中学校	イギリス民謡: アメイジング・グレース、平吉毅州: ひとつの朝	
		中部大学技術文化専門学校女声合唱団	吉田真和: 未来予想図II、鈴木キサブロー: 想い出がいうばい	
		中部大学マンドリンクラブ	Amedeo Amadei: 「海組曲」より 第1・第2・第4楽章	
		名古屋第一高等学校吹奏楽部	Robert Jager: 三つの中国風小組曲	
		中部大学混声合唱団	三善晃: 「愛の歌」より ひとり	
		中部大学軽音楽部	Oliver Nelson: Miss Fine、Sammy Nestico: The Wind Machine	
		春日丘高等学校吹奏楽部	Alfred Reed: Armenian Dances、Rafael Hernandez: El Cumbanchero	
		中部大学吹奏楽シンフォニックバンド	真島俊夫: マーチ「五月の風」、佐橋俊彦: ティープ・パープル・メドレー	
		中部大学・中部大学女子短期大学管弦楽団	シベリウス: 交響曲「フィンランディア」、ブラームス: 交響曲第2番より 第3・第4楽章	
24	平成10年11月14日	春日丘中学校	富岡博志: ほくらの世界、木下牧子: 春に	991 (内訳) ・出演者:384 ・入場者:607
		中部大学マンドリンクラブ	アマディオ・アマディオ: 英雄行進曲「イタリア」、ピエトロ・マスカーニ: エスパニア・カーニ	
		名古屋第一高等学校吹奏楽部	パッヘルベル: パッヘルベルのカノン、ハックビー: プライドン・ベイ	
		中部大学軽音楽部	Spencer Williams: Basin Street Blues、秋吉敏子: My Elegy	
		中部大学吹奏楽シンフォニックバンド	グレン・ミラー: グレン・ミラーメドレー、ジョン・ウイリアムス: 「スターウォーズ組曲」より	
		中部大学・中部大学女子短期大学管弦楽団	ブラームス: ハンガリー舞曲 第5番、ヨハン・シュトラウスI世: ラデツキー行進曲	
		中部大学混声合唱団	古寺七重: 雪、新美徳英: 反語	
		春日丘高等学校吹奏楽部 C・F・B	ステージドリル ～21世紀への挑戦～	
中部大学吹奏楽シンフォニックバンド、名古屋第一高等学校吹奏楽部、春日丘高等学校吹奏楽部	パーシー・グレインジャー: リンカーンシャの花束			

(No. 2)

回	開催日	出演団体	曲目	参加者数(人)
25	平成11年11月13日	中部大学吹奏楽シンフォニックバンド、名古屋第一高等学校吹奏楽部、春日丘高等学校吹奏楽部	小山清茂：吹奏楽のための木挽歌、岩井直博：日本民謡メドレー	1,386 (内訳) ・出演者:544 ・入場者:842
		春日丘中学校、中部大学マンドリンクラブ、中部大学混声合唱団	ホームソングメドレー	
		中部大学マンドリンクラブ、中部大学管弦楽団、中部大学混声合唱団	ドヴォルザーク：交響曲第9番第2楽章、歌劇ローエングリンより「婚礼の合唱」	
		中部大学軽音楽部、名古屋第一高等学校吹奏楽部、春日丘高等学校吹奏楽部	ステージドリル ～輝け・三浦学園音楽祭 翔けよ21世紀へ～	

全コンサートを通じて

○開催場所 愛知県厚生年金会館(名古屋市千種区) 大ホール

4. 三浦学園幸友会及び中部大学後援会

4-1 三浦学園幸友会

【現状の説明】

本会は中部大学をはじめ中部大学技術文化専門学校、名古屋第一高等学校、春日丘高等学校、春日丘中学校を擁する学校法人三浦学園の創立 50 周年を記念して、産・官・学の連携を推進する意図で、平成元年に地元企業が中心となって結成され、次のとおり事業展開を図っている。

- ①学術文化興隆のための事業として講演会・研修講座の開催と中部大学公開講座の後援および中部大学キャンパスコンサートの協賛
- ②三浦学園が行う地域交流を支援・促進するための事業として産学協同事業の推進
- ③三浦学園が行う国際交流を支援・促進するための事業として中部大学大学院留学生奨学金の支給
- ④三浦学園幸友会と三浦学園設置校の懇談会開催と企業ガイドの作成
- ⑤中部大学研究者一覧と中部大学通信の配布と会員名簿の発行
- ⑥会員相互の親睦と啓発のための事業

なお、別紙のとおり平成 7 年度から平成 11 年度までの、会員数、企業ガイド掲載社数、会員企業への就職率、中部大学大学院留学生奨学金授与者数の一覧表を掲載した。

【点検・評価】

長引く不況にともなう厳しい就職状況により、中部大学でも求人者数が激減し苦戦を強いられている。これを踏まえて本会では、平成 10 年 5 月 6 日に会員企業 162 社の協力を得て、「学内企業説明会」を開催した。これには、約 700 名の学生が参加し、希望企業の採用担当者と企業内容、待遇面等について面談を行った。また、4 年生、3 年生の学生全員に本会会員企業の会社内容が掲載されている「企業ガイド」を配布した。以上のように、学生の就職活動を積極的にバックアップした結果、本会会員の諸企業には、中部大学・大学院を合わせて 285 社 333 人の学生が内定し、全体就職者の 25% を占めた。

また、会員企業間の交流をはかるため、研修講座、公開講座を開設している。会報誌「幸友」を年一回発行し、大学および学園設置校の最新ニュースを会員企業に提供している。

【将来の改善・改革に向けた方策】

前述のとおり、今後も就職活動は厳しいものと考えられる。従って、中部大学就職部および中部大学後援会と連携し、さらに強力な連絡と調整を行う。また、委託研究、奨学寄付金、共同研究等会員企業と大学の研究機関の橋渡しを積極的に行う。

三浦学園幸友会詳細データ

		7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
会員数	法人	740	754	723	733	716
	個人	148	178	180	179	176
企業ガイド掲載社数	(社)	193	232	275	248	
会員企業への就職率	(%)	21.7	23.3	31.5	25.0	
中部大学大学院留学生奨学金授与者数	(人)	2	0	1	0	2

*別表
参照

別表：中部大学大学院留学生奨学金授与者一覧

	専攻	氏名	カナ	国籍・出身地
平成7年度	機械工学	謝 紀敏	シャキミン	中国・上海
〃	国際関係学	趙 南洙	チヨウナンシュ	中国・吉林省
平成9年度	工業物理学	滕 永杰	トウヨウジエ	中国・河北省
平成11年度	電気工学	黄 振賢	コウシンケン	中国・上海
〃	建設工学	YILMAZ CIHAT	ユルマス ジェハット	トルコ・カイセリ市

(参考) 授与金額は、一人当たり300,000円である。

4-2 中部大学後援会

【現状の説明】

本会は、昭和42年に結成し、大学の教育方針に従って、大学の教育・研究および施設・設備の拡充に協力し、また本学と父母との連絡を密にしながら、学生の福利厚生を増進させることと就職斡旋活動に関する援助を目的としている。本会の事業内容を、以下に掲げる。

- ①大学の教育、研究および施設・設備拡充のための援助
- ②全国各地での「父母との集い」の開催
- ③学生の就職斡旋活動のための援助
- ④課外教育活動の援助
- ⑤大学と父母との連絡を密にするための援助
 - ・後援会報「信頼」の刊行
 - ・「中部大学通信」の送付
- ⑥教員と学生のコミュニケーションのための援助
- ⑦学生の福祉増進のための援助

【点検・評価】

父母が直接大学を訪ねて教職員と話し合うことは、容易でない。これに応えるため、本会の最大事業である「父母との集い」では、各地（平成11年度は、静岡・岐阜・大学・長野）に会場を設け、大学の教育方針や現況などについて教職員から父母に説明を行う。さらに、学業成績などについて相談する各学科の指導教授との個別面談や学生生活一般、就職に関する相談も行っている。このように、父母が教職員と話し合うことは、大学の方針や子息の日常生活を把握する上で極めて大切である。従って、この「父母との集い」は、学生への間接的なサービスとしての役割を果たしている。なお、別紙に平成7年度から平成11年度までの「父母との集い」会場別参加状況をまとめた。

また、会報誌「信頼」を年1回発行して、全会員の父母に配布。内容は大学の方針および将来計画、学長のことば、各学部学科だより、学生部情報、就職部ニュースなど大学を知る一助となっている。

【将来の改善・改革に向けた方策】

大学と父母との連携を密にし、相乗的な発展を図る。特に、就職対策については中部大学就職部および三浦学園幸友会と連携し、さらに強力な連絡と調整を行う。

中部大学後援会「父母との集い」会場別参加状況

○平成7年度

会 場		開催日	参加者数(人)
石川県	金沢都ホテル	9月 2日	41
岐阜県	岐阜グランドホテル	9月 5日	102
静岡県	ホテルアソシア静岡ターミナルホテル	9月 9日	96
中部大学		9月16日	272
		9月17日	299
		9月22日	174
合 計			984

○平成8年度

会 場		開催日	参加者数(人)
大阪府	新阪急ホテル	9月 4日	31
広島県	ホテルグランヴィア広島	9月10日	27
三重県	四日市都ホテル	9月14日	62
静岡県	浜松名鉄ホテル	9月15日	80
中部大学		9月21日	201
		9月22日	250
合 計			651

○平成9年度

会 場		開催日	参加者数(人)
東京都	東京ガーデンパレス	8月24日	21
静岡県	ホテルアソシア静岡ターミナル	8月30日	100
中部大学		9月20日	462
		9月21日	402
岐阜県	岐阜グランドホテル	9月27日	120
滋賀県	彦根プリンスホテル	9月28日	46
合 計			1,151

○平成10年度

会 場		開催日	参加者数(人)
大阪府	大阪ワシントンホテル	9月 6日	13
三重県	四日市都ホテル	9月23日	59
中部大学		9月26日	345
		9月27日	379
静岡県	オークラアクトシティホテル浜松	10月11日	94
石川県	金沢全日空ホテル	10月17日	41
合 計			931

○平成11年度

会 場		開催日	参加者数(人)
静岡県	ホテルアソシア静岡ターミナル	9月12日	96
岐阜県	岐阜グランドホテル	9月18日	119
中部大学		10月10日	362
		10月11日	334
長野県	メトロポリタン長野	10月16日	23
合 計			934